

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail: junpai@sekinomiya.com

—— 平成21年を思う ——

昨年は天皇陛下御即位二十年の奉祝の年でありました。各地の神社参拝の折りには、ご皇室の弥栄を願い両陛下のご健勝と日本国家安寧を祈念して巡拝をさせていただいた尊い一年でありました。平成22年庚寅八白土星中宮年、初春の夜明けをテレビ画像に映し出された素晴らしい富士山の日の出と共に迎えた。

北陸を中心とする日本海側が大雪だと伝えられる中、寒波にもかかわらず東京は連日快晴に恵まれ、各地の神社・仏閣は不景気を反映して多くの参拝者が訪れ、神からの導光と仏の慈悲・慈愛を天恵として授けた。私もその中の一人として、氏神様の御神前で新年早々玉串を奉奠させていただきありがとうございました。神様の大いなる守護を感じて只ただ『感謝』と『おかげさまで』の意で深く頭を下げ御礼申し上げた。

昨年の厳しい世情の中で新年を迎えることができたのも多くの方々のご協力と教え・導きによるものであろうと思った。巡拝会の東京事務局を任せられ

て数年だが、平成21年は特に多くのことを学び体得でき充実した1年でもあった。2月1日の伊勢神宮の宇治橋渡り納めの参拝から11月3日の宇治橋渡り始式に至る9ヶ月間は特に私にとって例年ない新しい歩みでもありました。

人との出会いの中で神のみにあらず仏の世界にも深く入り、西国三十三觀音御開帳や青蓮院門跡での青不動御開帳と近畿三十六不動の出開帳は衝撃的だった。かつて椿大神社の故山本行隆宮司様から戴いた色紙の書『神仏一如』の意が本当にわかる思いがした。神を尊ぶあまり、何気なく仏を遠ざけていた

自分が今は觀音経の読誦に熱中している。姿なき神々たちの神氣の偉大さ、人々を見守る觀音様の慈悲・慈愛に均等なる崇敬の心を持てる自分が今はいるような気がしており、改めて神仏のご加護に合掌する思います。これらの体験から得たものが巡拝会の発展に繋がるよう、本年も会員の皆さんと共に歩ませてい頂きたいと思っています。

一の宮巡拝会 東京事務局 塩原 輝昭



宇治橋渡始式

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159
 E-mail : junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
 E-mail : shio0369@crocus.ocn.ne.jp



伊予国一の宮大山祇神社 御神木五姿

◆◆◆ 巡 拝 の 声 ◆◆◆

熱田神宮、お白石持ち行事に参加して

平成21年は、尾張国・熱田神宮の創祀千九百年とのことで記念造営事業が行われておりました。本殿遷座祭は10月10日に行われました。御遷座に先きだち奉祝行事としての「お白石持ち行事」に招いていただいたので、平成21年9月4日に参加・参拝してまいりました。

お白石は100×50×50 mm程度の白に灰色のすじのはいった海石で、これを御本殿前庭(瑞垣の中)にならべるわけですが、同じくらいの大きさの石をこれだけ集めるのはさぞかし大変であつたんだろうと思われます。昭和10年(1935年)以来、実に74年ぶりの行事で、一般の人が瑞垣の中にはいるのも74年ぶりのことでした。すべてが新しく御造替された本殿のご様子はまことに壯麗で神々しいものを感じました。このような行事に参加できたことは、それこそ神様のおみちびきによるものと感激しております。熱田神宮は一の宮ではありませんが、この感激を一の宮巡拝会のみなさまにもお知らせしたく一文をしたためた次第です。

私はもう若くはありませんので、あまり会のためにお役に立ちそうにはありませんが、一の宮の事をいろいろな文献で調べていると、数ある巡拝の中ではやはり諸国一の宮巡拝が最高であると改めて思いなおしているところでございます。

栗田 好明

四国一の宮を巡拝して

平成21年12月の21日、22日、23日、24日の4日間で四国を巡ってきました。大山祇神社、土佐神社、田村神社、大麻比古神社の順でした。何処の一の宮神社も風情がありました……。特に印象に残った神社は大山祇神社でした。広大な面積の中にあった御神樹(上部画像を参照)は2000年もの間成長しつづけている老樹でした。周りには網が巡らされて近寄れないような状態でした。中心部は

私流一の宮巡拝

一の宮は全国にある。都会にもあれば、鄙びた地にもある。私は巡拝には車をできるだけ使わず、列車やバスを利用している。大和一の宮(大神神社)へはJR桜井線の三輪駅を利用する。2両編成の電車が長いホームの真中に申し訳なさそうに停車する。駅前は寂れた商店が軒を連ね、参道へと続いている。田舎だけではない、都会の駅前商店街も寂れている所が多い。車社会の日本の縮図を見ているようだ。しかし、一の宮の周りを歩いてみると、大げさではないが色々な発見がある。小さな造り酒屋、時間が止まったような古い和菓子屋さん。こんな店を見つけたら、必ずお買い物!でも、昔は一の宮の参道は中心商店街だったはずだと……。古を想い感じる旅になる。

巡拝のもう一つの産物は、人が動くこと(巡拝)の効果である。これが地域の活性化の起爆剤になると思う。四国八十八カ所の年間遍路人数は10~15万人と云われている。遍路の出発点に当たる徳島では、四国遍路と阿波踊りを観光の目玉と重要視している。

巡拝を続け、人が動き、各々の一の宮の賑わいが増せば、その地域に広範な波及効果をもたらすと思う。そのために、公共交通機関を利用して、近くの温泉宿で一宿一飯を!

高度成長社会はもはや破綻しかかっている。これから、地方の経済を支えるのが、一の宮巡拝等の心の旅である。多くの人々が全国の一の宮を巡拝すれば、地方文化と経済の復活等を始め、素晴らしい地域社会が再構築できるのではないかと、ツラツラ想いながら私の巡拝は続きます。

近畿ブロック 高寺 壽

穴洞化となっていましたが天を見上げると元気に青葉が延びていました。私は老樹と語り合ってきました。そして生きる元気をもらっていました。この時、神社巡りは元気をもらえると実感しました。(四国四社の写真は巡拝会会報11号・平成20年10月発行に掲載有り)

これで一の宮神社巡りも80社となりました。残す処、山陰地方と九州地方そして沖縄地区の20社あまりとなりました。

森 武美

日本伝統建築研究所 川仁(かわに)

建築家 菊園武彦

—— 神社建築・日本伝統家屋のご相談は ——

〒541-0053 大阪市中央区本町4-7-12 大急ビル7階
T E L : 06-6261-2262 F A X : 06-6261-2336
E-mail : kawani@kawani.com URL : <http://www.kawani.com>



SSC アートギャラリー

贈答用絵画・インテリアに…
有名作家～新人作家の絵画・版画・陶芸・彫刻

〒666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10
T E L : 072-791-5158 F A X : 072-791-5159
E-mail : sekiguchi@sekinomiya.com



「私と千太は深江、木之助は湯岳の宮大工でございます」寅助が更に一つ辞儀をしてから語り出した。まだ緊張から完全に解放されてないのか、声に少々の震えとかすれがあった。

「ほお、宮大工と——」

三喜は笑顔を泛べて呟くように答えた。

三喜は他人と話す時は笑顔を泛べるのを心掛けとし、はじめは努力もあったが、今は自然にそうなっていた。辻語りをやっている時に、笑顔を泛べて喋ると、聞く者がよく聴いてくれるのを身をもって知ったからである。

と言うことは、同時に三喜も彼等の話を身を入れて聴く心地になっている、ということであった。

「いえ、宮大工と申しましても、まだほんの駆け出しでございます。橋さまは、天手長男命神社は、古い昔、原の辻の奥に在ったとご存知でございますか?」「むろん聴いたことはある。それが——」「ならばなぜ、神社を梅田辻にご造営なさるのでございますか。その事を、深江、湯岳、遠く離れた勝本、諸津、いえ壱岐に住いおりますほとんどの宮大工が怒っております。造地が違うと。その上に、橋さまは、住吉、中方、八畳在の宮大工のみを使い、他土地の職の者を呼びません。そのことにも腹を立てております」

「なるほど、壱岐は神島、多くいる宮大工の方々に声をかけ理解を得なかったのは当方の手抜かりであった。早速ご家老ならびに村松さまにお訴えし手配いたそう。しかし神社を今の地にご造営するの件は、変更は有り得ませんぞ」「何故、なぜでございますか。神さまは、元おいでになつた所にお祀りするのが昔よりの習慣ではございませんか。



天手長男命さまはもとの原の辻奥にお祀りすべきです。それには直にいまのご造営をやめるべきです」

「ならばこちらから尋ねよう。おぬしは、命さまが、原の辻辻にお住いであった証拠をきちんと立てられるのかな。立てられるならそれを聞かせて貰いたい」

「そ、それは——」

寅助は口ごもった。木之助が言った。

「おれらの親父、その上の爺さま、もっと上の爺さまの代から、そう言い伝えてきただ」

「そうであろう——」

三喜は頷いて語をついだ。

「むろん言い伝えは大事である。ないがしろにしてよいなどとは誰も言えぬ。しかし此の度は、大勢の人々と探索に

当り、やっとの事でご神器を発見した。身は、そのご神器を発見した場所を第一番と考え、よっていまの場所を殿様のお許しを得て定めたのだ。この事は都の庁にも届け申し上げ、お許しを戴いている。従ってご造営の地の変更はない」

三喜の返答には歓呼たるものがあった。

三人はどう答えたならよいか困惑したのであろう、顔を見合わせた。が、誰も何も発言しなかった。さすがに氣の強い木之助も下を向いてしまった。

三喜が語を継いだ。

「ご造営の地は変更いたさぬが、しかし壱岐中の宮職の人々とは、係の上役の方々と相はかり、膝をまじえて意見をききましょうぞ。ともあれ、この身の答えを持参し、島へ帰り、棟梁親方衆に報告なさい。それでもなお申し分があつたら、もう一度身を訪ねて来なされ」

三人は三喜の事をわけての説得に、ほつとしたのか、顔を見合わせ、寅助が代表して、

「有難うございました。島へ戻り早速只今の橋さまのお言葉を伝えます」

丁寧に辞儀をして、三喜の前から去って行った。

(つづく)



株式会社 アドワーク

クリエイティブ

企画・デザイン・デジタルデータから各種印刷・特殊加工

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 第一大津ビル
TEL: 03-5823-3900 FAX: 03-3865-2135
E-mail: mac-data@adwork-net.co.jp (代表アドレス)

有限会社 自然と文化の旅

観光バスの手配は… 担当者：入江 光まで

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-9 みちのくビル2階
TEL: 03-5825-6155 FAX: 03-5825-6156

申し込み

※詳しい案内書及び参加申込書・参加費振込用紙をお送りいたします。

電話 ○三一五八三三一三九〇一
FAX ○三一三八六五二三五
郵便振替(大阪)○○九九〇一五八一五一五五五

平成二十二年度 一の宮巡拝会 全国交流会及び巡拝会ご案内予告

平素は一の宮巡拝会の各行事にご参加並びにご協力を賜り、ありがとうございます。さて標記のよう主要年間計画を左記の様にご案内(予告)させて頂きます。会員皆々様のご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

関東ブロック第五回交流会&巡拝会



諸事情により平成二十二年秋恒例の、関東ブロック交流会が実施できず神宮・宇治橋渡始式に参加させて頂きました関係上、本年は近畿ブロックに了解のもと、関東ブロックが先に計画させて頂きました。新造営になった安房神社および洲崎神社を正式参拝いたします。

目的地 安房国一の宮・安房神社・洲崎神社(正式参拝)

日 時 平成二十二年三月六日(土)

旅行代金 一万一千円(交通費・玉串料・昼食・飲み物含む)

集合 東京駅丸の内北口午前七時三十分 八時出発

コース 首都高速→アクアライン→館山道→安房神社→(昼食・だいば工房)→洲崎神社→役の行者の岩窟→八犬伝博物館→往路→東京駅解散

平成二十二年度 会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。

毎年1月が更新月となっています。

本年度の更新が未だの方は同封の振込用紙にて更新してくださいますようお願い致します。

会報・小説 橋三喜の発刊等、会運営の原費となりま

平成二十二年度 一の宮巡拝会 伊勢神宮全国交流会のご案内

「平成二十二年度 一の宮巡拝会」編

「全国一の宮会」編

全国一の宮めぐり

一の宮巡拝会として天皇陛下御即位二十年(平成二十一年十一月十二日)を奉祝し御皇室の弥栄と国家安寧を祈念すると共に、新架された宇治橋を渡り、巡拝会として初めての正式参拝と神楽奉納を致したいと考えます。多数のご参加を希望しております。

目的地 伊勢神宮(御神樂奉納・御垣内正式参拝)

日 時 平成二十二年四月二十四日(土)

十五日(日)一泊二日

旅行代金 二万五千円(玉串料・御神樂料・宿泊費・交通費)

集 合 JR伊勢市駅 正午十二時

一日目 JR伊勢市駅→バス→外宮(御垣内参拝)→志摩國の宮伊雑宮→伊射波神社→鳥羽または二見泊・懇親会

二日目 二見興玉神社→内宮(御垣内参拝・御神樂奉納・饗膳)神宮会館昼食→伊勢市駅解散

※詳細につきましては、追ってご案内致します。

近畿ブロック交流会&巡拝会(仮)

平成二十二年秋(九月~十月)頃実施予定

目的地 若狭国一の宮 若狭彦(上社)・若狭姫(下社)神社

※詳細につきましては、次号会報にてご案内致します。

ご購入希望者は東京事務局まで



の宮神社のみでの頒布で一般の書店では購入出来ません。諸国一の宮神社の社頭でお求めください。又は東京事務局へお問合せください。
頒価一〇〇〇円(送料別)

御朱印帳

四国和紙・楮箆ヶ峰(高知県)の和紙を使用、軽くて携帯に便利(一五〇g)、墨書きも吸い込みが良く好評です。

四国和紙全文(白紙版)
定価六千円(送料別)



◎全国一の宮巡拝のすすめ 改訂版(三百円)
◎全国一の宮参拝参考資料・初版(百五十円)
◎全国一の宮神社所在地/全国一の宮鎮座地 覧表(会員無料配布)
定価七千円(送料別)

一の宮巡拝会本部事務局 創房閑宮(有)内

〒六六六一〇二一 兵庫県川西市大和東二十三丁
電話 ○七一七九一五五八
FAX ○七一七九一五五九

E-mail: junpai@sekionomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーカ内

〒二二一〇〇五五 東京都台東区三筋一十一
電話 ○三一五八三三九〇一
FAX ○三一三八六五二三五

E-mail: shio0369@crocus.ocn.ne.jp

●入会金及び会費について
一般維持会員 年会費 三〇〇〇円

賛助会員 一口 三〇〇〇円(何口でも可)
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈

●会費等お振込み先
郵便振替(大阪)○○九九〇一五八一五一五五五